

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1473200325
法人名	社会福祉法人 幸済会
事業所名	高齢者グループホーム 三幸の園
訪問調査日	平成20年3月14日
評価確定日	平成20年3月31日
評価機関名	福祉サービス第三者評価機関しょうなん 株式会社フィールズ

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成 20年 3月 19日

【評価実施概要】

事業所番号	第1473200325号
法人名	社会福祉法人 幸済会
事業所名	高齢者グループホーム 三幸の園
所在地	〒241-0012 神奈川県横浜市旭区川島町127-1 (電話) 045-372-5086

評価機関名	福祉サービス第三者評価機関しょうなん株式会社フィールズ		
所在地	藤沢市鵜沼橋1-2-4 クゲヌマファースト3F		
訪問調査日	平成20年3月14日	評価確定日	平成20年3月31日

【情報提供票より】(平成 20年 2月 13日事務所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12年 3月 28日			
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9人	
職員数	13人	常勤 3人	非常勤 10人	常勤換算 7.8人

(2) 建物概要

建物構造	(木造)造り		
	1 階建ての	(1)階 部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	62,000 円	その他の経費(月額)	5,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 237,000 円	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	150 円	昼食	350 円
	夕食	400 円	おやつ	150 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要 (2月13日 現在)

利用者人数	9 名	男性	名	女性	9 名
要介護1	2 名	要介護2	1 名		
要介護3	2 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	名		
年齢	平均 83 歳	最低	72 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	東川島診療所 牧野記念病院 エンドウ歯科
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

雑木林と畑に隣接している認知症デイサービスを併設したホームです。建物は、平屋建てで広々しており、共有空間や居室がゆったりとした設計となっています。このホームには他にはない運営上・サービス上の特徴があります。毎月の支払いは家族の来園による方法のみとしているため、必ず家族との面接が行えます。犬を飼っていて、家族の一員となっています。病院への通院は、職員が付き添っていきます。経営母体が病院であるため、在宅医療が可能な他、緊急時の訪問診察など医療との連携がしっかりと出来ています。明晰な管理者と明るくしっかりした職員が一体となって利用者に寄り添い、サービスの基本を実践しているため、利用者家族からの評価も非常に高い優れたホームです。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価では特に改善点が見当たらないという高い評価でした。しかし管理者は面会スペースの仕切りの設定や、リビングから庭への出口設置など、改善意識を持って運営しており、改善に取り組んでいます。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価については、管理者が日頃の職員との密接な関係と意見交換により、現状を把握した上で、評価を行っています。前年評価についてもホールに常時掲示され、来訪者が閲覧できる状態になっています。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>定期議題は期間での活動報告や行事、出来事、事故、研修予定などですが、会議を通じて今まで交流がなかった町内会とのパイプが徐々に強くなってきています。園から「何かこちらできることはありませんか?」という提案もできる状況です。今後は家族の方にも参加していただいたり、町内の同じ環境の方との交流などの取り組みが期待されます。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>家族の方とは、毎月かならず一度面会ができる仕組みになっているため、意見・苦情などの聴取が頻繁にできます。そのため、ほとんど苦情がない状態が続いています。苦情などが出た場合は、事実確認から運営への反映、家族への対応などできる体制になっています。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>所属する町内会には運営推進会議開催をきっかけとして最近参加しました。隣接する団地の自治会のお祭り、運動会などへの参加、小学校との交流もさかんで、小学生と先生の訪問も多いため、小学生が休日に自転車で遊びにやってくるほどになっています。今後も地域との付き合いを推進会議などを通じて深めていく意向です。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「その人のできる力の発揮」をケアの重点とし、「暖かい心 冷たい頭、すぐれた技能」をモットーとして生きがいや役割を持ち生活していただける環境を大切にすることを理念としているが、特に地域を意識した理念は掲げていない。		「地域密着」をあらゆる理念を検討し、加えられることの検討が期待されます。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事務所内に理念を掲げている他、毎年のケアの方針も大きく掲示して、共有化をはかっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	所属する町内会には運営推進会議開催をきっかけとして最近参加しました。隣区の隣接する団地の自治会のお祭り、運動会などへの参加、小学校との交流もさかんで、小学生と先生の訪問も多いため、小学生が休日に自転車で遊びにやってくるほどになっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価については評価の意義をよく理解して取り組んでおり、評価結果を玄関ホールに閲覧できるようにして開示している。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回定期的開催している。町内会会長、青少年指導員、地域包括所長の他、職員も参加して活動報告や行事、出来事、事故、研修予定などを議題として運営している。頂いた意見は反映に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	近隣のケアプラザで「地域支え合い連絡会」(3ヶ月1回開催)の構成員として参加し、ボランティア団体や民生委員などと交流し、地域での様々な情報を得ている。市レベルではグループホーム連絡会に参加している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族へは毎月ご利用者の様子をお便りとして書いている。毎月の費用支払いは銀行引き落としをせず、必ず家族の方が来園して支払う仕組みとしているため、家族とはその折に報告したり、意見をいただいたりしている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月の来園の際にいただく意見の他、苦情窓口を施設や重要事項説明書などに明示していますが、あまり出ていない状況です。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	施設内では玄関ホームに各職員の名前と写真がわかりやすく掲示されている。異動は最小限におさえる努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修では毎年年間計画をつくり、常勤・非常勤問わず参加できるよう努めている。19年度は月2回金曜日に開催してきましたが、20年度は月4回に増やし、研修テーマの充実を行っている。外部講師も招いている。		法人での研修が充実していますが、社外研修の機会も増やされることを期待します。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム連絡会に参加しており、18年度は他グループホームとの相互訪問に職員が参加している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>愛着のある品物や家具等を持ち込み、自室を馴染みの環境にしたり、今までしてきた掃除、配膳などを一緒にしてもらったりするなど、少しずつ馴染ってもらっている。また見学の際は利用者と一緒に食事や散歩に参加してもらっている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>誕生会では職員も一緒にカード作りや食事作りをし、利用者の横に座って話を聞いたり、一緒に喜んだりして楽しんでいる。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>ケアプランの評価、再検討の際はアセスメントを行い、毎月家族が来るのでその時、意向や希望を聞いている。特に「出来ること」を大切にプラン作りをしている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>カンファレンスを介護支援専門員、管理者、担当職員で行い、家族からはあらかじめ意向を聞いておき、関係者の意見を反映したケアプランを作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月毎に再アセスメント、カンファレンスをし、ケアプランの見直しをしている。利用者の問題点を捉えるより、何が出来るかを考え、「出来ること」をプランにとり入れている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設しているデイサービスのレクリエーションの体操や「カレンダー作り」等に希望する利用者は参加出来ます。ホームで犬を飼っているので生活に活気がある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	理事長が医師である為、自ら利用者の健康管理をしている。緊急時には夜間でも駆けつけてくれ、診てもらう。また看護師が月2回訪問している。提携医療機関である東川島診療所には職員が付き添いで定期受診をしている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居契約時に「重度化した場合における対応にかかわる指針」の同意書をとっている。必要が生じた場合は選択肢を示し、医療と連携をとり対応していきます。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者に対しての声かけや言葉使いは馴れ合いにならないように注意をしている。個人の記録やファイルは事務所の鍵のかかる書庫に保管している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日利用者の希望を聞きながら出きるだけ希望にそった過ごし方をしてもらっている。体操等も無理強いはしないで、デイサービスのプログラムに参加したい利用者には参加してもらっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	台所ではデイサービスの食事と一緒に作っているの で、職員が主となって食事作りをしている。利用者が台 所に入る機会は少ないですが、テーブルの上で出来る ホットプレートのおやつ作り等は利用者も一緒に楽しん で作っている。献立表は手作りで作成し、リビングの皆 が見えるところに貼ってある。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわず に、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入 浴を楽しめるように支援している	昼間の時間帯で利用者の希望にそった時間に入浴介 助をしていますが、比較的自立している利用者で夕方か ら夜にかけての時間帯の希望があれば対応していく意 向である。入浴チェック表に入浴の状況が記録されて いて、一日おきには入浴をしてもらうようケアをしてい る。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一 人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみご と、気晴らしの支援をしている	洗濯、自室の掃除、テーブル拭き、エプロンのひも結び 等出来ることはしてもらっている。また習字、水墨画等 が得意な利用者にはデイサービスのレクリエーションに 参加してもらっている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその 日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援 している	買物、散歩など希望があれば一緒に出かけている。ま た回転寿司などの外食も希望があれば一緒に行ってい る。その他に毎月花見、いちご狩り、七夕など外出レ クリエーションの企画があり、希望者全員で出かけてい る。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵 をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけない ケアに取り組んでいる	玄関は防犯上施錠されているが、外出願望のある利用 者が徘徊を始めたり、落ち着かない様子が見られたら、 一緒に外に出て、落ち着いたら帰ってきている。		施錠しないケアを行っているグループホームの事例が多 数ありますので、情報収集して現状の方法がベストか検討 を期待します。
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず 利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより 地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回利用者と職員とで防災訓練をしている。防災計 画も立てられ、災害訓練日誌にも記録されている。地 域住民との共同の訓練はしていないが、近所の団地の 防災訓練には職員が参加し、防災協力は結んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材委託業者から毎日3食分の食材が配達され、職員が献立どおり作っている。ミキサー食や刻み食にも対応している。食事摂取表、水分摂取表に記入し、利用者一人ひとりの摂取状況を把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	大きな吹き抜けがあり、廊下、玄関ホール、リビングがとても広々している。床排水設備のある厨房がリビングスペースの前にあり、やや音が気になる点がある。リビングには畳敷き床も設けられている他、カレンダー、写真など壁貼りもある。庭には直接出られないが、季節の花が中から楽しめている。		リビング両翼の廊下に設けた接客スペースに視界を区切る衝立や棚などを置く工夫があると、共有空間にアクセントがついてより豊かな雰囲気になると考えられます。検討項目としての認識が管理者にありますので、その実現が期待されます。
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は約10平米(6畳)ですが、クローゼットはその面積には含まれていないので広々している。家具調度は持ち込みが原則で、利用者は様々な物を持ち込んで自分の空間にし、居心地よく過ごしている。		

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	高齢者グループホーム 三幸の園
(ユニット名)	三幸の園
所在地 (県・市町村名)	神奈川県横浜市旭区西川島町127-1
記入者名 (管理者)	佐々木 栄隆
記入日	平成20年 2月 13日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	三幸の園では「その方のできる力の発揮」にケアの重要な視点をおき、今出来る力や能力を生活に用い、生きがいや役割を持ち生活して頂ける環境を大切にしている。	それぞれの出来る力を把握し、生活の色々な場面において自然に活かせる(生活動作、趣味等の中で)プランを作成し、実施していく。
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	事務所内に大きく理念を掲げ、どの職員にも分かりやすい言葉で表現し共有しあう。	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	家族に対しては毎月のお便りの中に事業所の日常の取り組みや、ご利用者の力の発揮をお知らせする。また、ケアプラン更新の際にも同様に説明を行う。運営推進会議においてもご利用者の皆様の力の発揮を定期的にご覧頂き、地域・各関係機関の皆様へご理解頂く。	運営推進会議は、ご利用者がいらっしゃるリビングで行い、入居者や職員の日常の様子をご覧頂いている。
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	近隣には小学校があり、定期的な交流を行っている。また、この定期手な交流を継続していることより、休日には子供たちが自らお年よりに会いに来ることが増え、顔見知りとなり、日頃の散歩の際にも声をかけて頂く事が多くなった。	
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	町内会に加入しており、地域の行事への招待も多く頂いている。また、近隣の小学校においてもたくさんの行事への招待と同時に足を運んで頂く機械も多くもっている。	町内会のお祭り、運動会、正月の獅子舞への参加。小学校行事(鑑賞会、運動会、お祭りなど)年間を通し多くの交流機会を今後も大切にしていこう。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議において、町内会長より町の現状を聞く機会が増え、とても参考になる。取り組みに関しては今後積極的に検討・実施していきたい。		ゴミや防犯の問題。町内会では日曜の朝等に地域で公園の清掃などをしており、事業所において何か役立てる事はないか職員で話し合っている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価にて要改善の必要があるものに対し、申し送り簿を通し、職員へ周知している。またその意義に関しても理解を深めるよう職員会議にて説明を行なっている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度定期的開催し、各構成員より評価を頂く事としている。頂いた意見や必要な改善策等にびては、職員が日頃より目が通せるようファイルしている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	近隣のケアプラザにおいて「地域支え合い連絡会」構成員として参加させて頂いており、老人福祉のみならず、地域の様々な課題等について話し合うことができている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	入居されている方の中には身寄りの無い方もおり、生活安心センター職員とも連絡、相談の機会を必要に応じ設けている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃より第三者からも誤解される対応をとらないよう呼びかけ又職員同士で気をつけあう環境づくりをおこなっている。またポスター等で啓発をおこなっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約の際は十分な時間を頂き、不明な点等がないかその都度確認する事としている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご利用者の方からの不満等については職員より迅速に報告を受け、適切に対処するよう努めている。</p>	<p>窓口が明確でなく、言いやすい環境を整えているとは言えず、家族及び地域の方々より助言を頂き、工夫が必要。また、普段より不満がでないよう努力していく。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>ご家族へは毎月ご利用者の様子(お便り)、出納帳・通帳のコピーを郵送している。また、職員の様子についても、写真を玄関に掲示、入退職もお便りでお知らせしている。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情窓口(施設内外)を玄関に掲示している。</p>	<p>窓口を掲示しているが、言い易い環境を整えているとは言えず、家族がより意見を言い易い取り組みを考えたい。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員会議(同時に勉強会)を定期的に設け、職員がケアに対する意見や提案が出来る機会を設けている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>勤務に関しては、事業所及びスタッフのそれぞれの都合より、ご利用者にご迷惑のかからないよう調整・確保に努めている。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>事業所においては、顔なじみの関係の構築を重要と考え、異動の検討の際は、慎重に行うこととしている。</p>	<p>離職が生じる際は、事業所より家族、ご利用者んじ説明し、不安を最小限にとどめるよう努めることとしている。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修においては、年間計画を作成し、常勤・非常勤を問わず参加できるよう努めている。時間においても勤務に支障の無い時間にて実施している。		施設外研修参加の確保が充分でなく、機会を増やす努力をしていきたい。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内GH連絡会を通し、相互研修の実施等を行っている。		町内にはグループホームが多くあり、身近な地域でどのようなケアの特徴や課題があるか、情報を共有できる機会を作りたい。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	法人では慰安旅行や懇親会など、職員同士が勤務外の時間において交流できる機会を年間を通し設けている。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	管理者は毎日理事長(運営者)への報告を行い、入居者や職員の状況を把握しており、必要に応じ適切な助言を頂いている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談、見学についてはご本人に来ていただけるよう促し、不安や意見を言い易いよう対応している。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の相談においては必要に応じ面接、電話等にて行っており、信頼してお話しいただけるよう努めている。		

項 目		(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要に応じてケアマネージャーと相談し、本人に適切なサービスが何であるのか、また、いくつかの選択肢を家族に示しながら対応している。	
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学や相談の際は、本人に他の利用者と一緒に食事や散歩等に参加して頂き、場合により数日行うことで馴染みになって頂いている。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	事業所の理念より、出来ることは本人で行って頂き、出来た際や、出来なかった際にも互いに声をかけあいながら、共に共感することとしている。	
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	日頃より家族と様々な会話のできる距離と室を保ち、年間行事に家族との交流会(バーベキュー、お鍋等食事を共にする)を設け、家族と一緒にの理念でケアする意識を共有する。	
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会等の際は共用空間とは別の場に本人、家族の居場所(お茶を飲める場等)をすすめ、落ち着いた雰囲気の中で過ごせる時間を提供する。	仕切り等を設け、更にプライバシー配慮ができると尚良い。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族へ面会を促すと共に、外出や外泊の依頼、住んでいた地域の近所の方々への面会も依頼している。	バーベキュー・お鍋の交流会の際は、身近な家族に限定せず、誰も参加できない時などは、その兄弟、孫にも参加を促している。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	気の合うご利用者が近くにいるよう座席配慮を行う。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	長期入院等により退所されたご利用者に対しても、退院後ご連絡を頂くものとし、各関係機関と密に連絡をとり、ご本人・家族を支援している。		退所されたご利用者の家族と連絡をとり、顕著に回復されたご利用者を再入所としてお迎えした。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランの評価・再検討の際は必ず都度アセスメントを行ない、現在の本人の意向や希望を聞いている。困難者に対しても職員がご本人の立場になり意見する事としている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	各入居者の生活ペースを尊重し、一体的なケアを行わないよう周知している。また、職員はご利用者をよく把握する目的より、入職後の参照資料として、各ご利用者の生活背景、趣味等(面接記録)を閲覧するよう指導している。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	各ご利用者のケース記録にはケアプランの処遇実施の記載のみならず、些細な体調の変化や、気になる言動等を記載し、全職員が閲覧する仕組みになっている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護支援専門員を中心に職員とケアカンファレンスをおこなっているが、家族の意見は電話等で伺う等の実態である。		職員以上にご利用者を良く知る家族の意見の収集の方法に必要に応じカンファレンス参加等の工夫も必要である。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員にて対応が困難な事態が生じた際は、家族に来所頂き、都度話し合いをし、ケアプランに変更が必要な場合は早急に対応している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	些細な変化等は必ずケース記録に記載し、プランの見直しが必要と認められる際は、別に状態を考察する表の記載を職員へ依頼し、見直しの参考にしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	食事等において刻み、ミキサー、とろみの使用や苦手なものに対しては代替等の提供を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	小学校と定期的な交流を持ち、招待状などは直接ご利用者へ手渡しして頂き、ご利用者が地域に住んでいる実感を感じて頂いている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている			他の事業所との連携は現在多くなく、今後運営推進会議の構成員(地域包括支援センター職員)と交流を深めていきたい。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している			他の事業所との連携は現在多くなく、今後運営推進会議の構成員(地域包括支援センター職員)と交流を深めていきたい。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	理事長は医師であり、日頃よりご利用者の健康管理を行っており、ご本人及びご家族に充分説明をしながら必要に応じ地域医療と連携(入院等)をとり対応している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	かかりつけ医へは毎日管理者よりご利用者の心身の様子を報告に行っており、助言を頂いている。また、職員は毎日かかりつけ伊に心身状況報告書を医師へFAXし、相談に対しては随時返答頂いている。		
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	かかりつけ医院より定期的に看護師が訪問し、健康管理の他にも日常会話など安心できる環境がある。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	診察や検査には必ず職員が同行し、説明を聞いている。また、早期に退院して頂けるよう病院の地域医療連携室の相談員と連絡を密にとりあっている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に際しては医師も含め、充分本人や家族を話し、どこの場でどのような対応ができるのか選択肢を示しながら本人に最適な方法を検討している。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	事業所にて「できること・できないこと」や他の機関で「できること・できないこと」も用い、医師や事業所の一方的な説明にならぬようご本人、家族の希望等を十分に伺う。		
49 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替え等が必要な際は、家族・受入機関と十分な話し合いを行い、移動した後も職員は面会に行き様子を見ている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>個人の記録やファイルは事務所の書庫に保管している。言葉使いにおいては職員同士で気をつけ、必要であれば適切な言葉使いを情報提供しあっている。</p>	<p>馴れ合いの言葉使いが見慣れている。ご利用者への声掛けのみならず、職員同士の言葉使いにおいても日頃より誤解を受けないように注意する。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>時間やマニュアルに流され介護するのではなく、必ず声掛けを行ない、理解いただいた上で行動に移すこととしている。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>業務をこなすことを優先せず、本人の力やペースを尊重し、過度な介助は行わないよう申し送り、対応している。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>髪のリカット等は近所の美容院を予約し、カット、パーマ、毛染めなど本人の意向を伺い、おしゃれを楽しんで頂いている。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>献立表を手作りで作成し、リビングにて皆様にご覧いただけるようにしている。苦手な献立に対しては代替の食品を提供している。仕度は現在職員が主となり、ご利用者が台所に入る機会が減少している。</p>	<p>食事の配膳、下膳の際は、皆様へお知らせし、ご自分で出来る方には行って頂いている。仕度においては今後できる内容を模索し、一緒に行える環境を作っていきたい。</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>共用冷蔵庫は個人でも使用して頂いており、買い物の際に購入した食品を食事の際自由に召し上がって頂いている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個別の排泄(声掛け・誘導)状況にあわせ行っている。オムツの使用が頻回な方についても、ケースカンファレンス等にて協議し、夜間のみ使用にするなど職員側にて意識し対応している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	1日おきに入浴して頂けるよう取り組んでいるが、希望されない方においては無理せず対応している。希望されない方が多くいらっしゃるので、声掛けや介助に工夫し、喜んで頂けるよう取り組んでいる。		現在昼間の時間に限定されているが、比較的自立されている方で希望がある方においては、夕方～夜間を試みてみたい。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜間は安眠を優先し、排泄回数等も個々に決め行っている。昼間に休息が必要な方においても声掛けを行い、個々に対応している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ケアプランの中では役割や楽しみを重視し、援助内容を考えている。ご利用者のできる事の中より役割や楽しみに結びつけ必要とされている実感を感じていただけるような声掛けを行っている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理できるご利用者はご自分の希望で買い物ができている。できないご利用者には出来る限り一緒に買い物に行き、選択して頂ける様支援している。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	玄関は防犯上の理由より施錠されている。ご利用者が外出を希望している際等はその時点にて職員も一緒に出るようにしている。		屋外に出れる場所が唯一施錠された玄関であり、閉鎖されている雰囲気は感じられている。気軽に屋外に出れる他の場所を検討したい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	外出レクリエーション(年間計画)を作り、四季折々楽しめるよう支援している。参加についてはご家族や本人の希望を伺い実施している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はご利用者も自由に使用できる事となっているが、出来る方が限定されており、事業所としての工夫や取り組みは現状ない。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間を設けず、いつでもお会いにきて頂ける事となっている。面会場所は居室やリビングとなっている。		共用リビングに面会スペースがあるが、仕切り等を置き、人目を気にしない空間作りの工夫をしたい。
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する資料、マニュアルを作成し、職員に周知している。必要と感じた際にはカンファレンスにて代替方法がないかなど職員同士で考え意見を出し合っている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は防犯上の理由より施錠されているが、職員は施錠が拘束であることも感じている。ご利用者に起こりうる弊害を充分理解した介護が必要と思われる。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	お一人で外出してしまう傾向のあるご利用者については必要な声掛けを行い、過剰な観察になりすぎないように心掛けている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人ひとりの力に合わせ所持品等を検討している。安全管理の重要性と能力の維持双方の説明を職員に行っている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	あらゆる事故における検討や防止策について職員内部研修を取り入れている。また、法人にて月2回勉強会を定期的に関催し、常勤、非常勤問わず参加できるものとしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	年2回、常勤、非常勤全員普通救命講習を受講している。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回避難訓練を行っている。		職員より夜間帯を想定した訓練の希望があり、取り入れていきたい。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	必要に応じ、嘱託医より家族説明を行い、家族及び職員が起こり得るリスクに対し情報を共有している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	管理者は毎日理事長(運営者)への報告を行い、入居者や職員の状況を把握しており、必要に応じ適切な助言を頂いている。職員は毎日嘱託医にご利用者の一日の様子についてFAXにて報告し、必要に応じ指示を頂いている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容についてファイルを作り一人ひとりがどのような効能の薬を内服しているか確認出来る様になっている。また、服薬の方法として誤薬が無いよう薬箱、チェック表を作成し、二人で確認している。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄表を記入しそれぞれのパターンを把握している。また、便困になら無いよう水分摂取表にて必要な水分の提供を図り、必要に応じ嘱託医の指示のもと下剤を使用している。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアチェック表を記入し全員食後に口腔ケアを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取表、水分摂取表を記入し、各ご利用者の摂取状況を把握している。またそれぞれ食札を作り注意事項等を記載している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症ファイルがあり職員が閲覧できるようになっている。市や区の主催する食品衛生講習参加の他、法人にて保健所より職員を招き常勤非常勤問わず参加できる講習会を年1回行っている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具は殺菌庫を使用し、衛生に努めている。台所で調理する職員には専用のエプロン、三角巾を義務づけている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関には造花や金魚の水槽を置き家庭的な雰囲気作りに努めている。また、ご利用者の日常や外出時の写真を数多く貼り、ご覧いただけるようになっている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を出す手作りカレンダーや写真を飾っている。台所は専用機材が入っており広いスペースになっており物音も大きくなっている現状であり、職員には音の配慮を掲示物にて呼びかけている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間に面会もできる空間を作ったが、仕切り等が無いため今後仕切りを置くなどの工夫をしていきたい。		職員にて温かい雰囲気の仕切りを検討していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋の物品に関してはご利用者の愛着のあるものを家族へ依頼しており、カーテンから布団や棚の全てを持ち込みとしている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	エアコンは集中管理になっており職員が調整するものとなっている。朝は夜勤者にて全居室窓を開放し空気の入替えを行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	死角がなく開放的な空間となっているが手すり等が少なく必要な場所に後付けしている現状である。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	職員は一日の日課についてゆっくり分かり易く説明している。行事やお誕生月もリビングに大きく掲示し見ていただけるようにしている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	居室及びリビングより直接外に出られる工夫ができていない。庭には畑や花壇、ベンチを設け散歩や目で楽しめるように取り組んでいる。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、活き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・職員の研修の機会確保に力を入れ、年間計画（月2回 第2・4金曜日の夕方実施）に基づき行っている。職員による講義の他、看護学校の先生、他の